

西要寺だより

第117号 令和7年1月28日

「西要寺だより」をお届けいたします。今冬は急に寒さが厳しくなりましたね。寒い日と暖かい日が交互に訪れる中、暖かい日が続いた後の寒さは一段と身にしみるように感じられます。また、一日の気温差も大きいので、皆さまどうぞご自愛ください。

今号では、「報恩講法要」「仏像講座」「新年会」のご報告をお届けします。

●報恩講法要のご報告

10月20日（日）と21日（月）の両日、報恩講法要をお勤めしました。両日とも午後2時よりお勤めを行い、その後、本願寺史料研究所上級研究員 岡村喜史先生によるご講話を聴かせていただきました。

お勤めは近隣の住職方とともに、厳粛な雰囲気の中で執り行うことができました。続く岡村先生のご講話では、親鸞聖人のご生涯を歴史的背景を交えながら丁寧に解説していただきました。

報恩講法要とは、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、その恩に感謝を込めて勤める法要です。

毎年報恩講法要では、本堂のご本尊 阿弥陀如来像の左側に親鸞聖人の生涯を描いた「御絵伝（ごえでん）」（四幅）をお掛けしてお勤めしますが、今年はその「御絵伝」の絵解きを行っていただきました。親鸞聖人が生きた時代の社会情勢を交えたわかりやすい解説は、参詣者の門徒さんたちにも大変好評でした。

また、2日目の最後には西要寺の歴史についてのお話もありました。岡村先生は西本願寺の記録を調査してくださり、当寺の御本尊である阿弥陀如来像（木仏）が3代住職・祐斉の時代、1664年（寛文4年）9月26日に下付され、同日に「西要寺」という寺号の使用許可も得たことを教えてくださいました。



私自身、西要寺の歴史について以前からもっと明らかにしたいと思っていたため、今回のお話は非常に感慨深いものでした。もちろん、親鸞聖人のご生涯に関する解説も心に深く刻まれるものでした。

●西要寺の歴史

報恩講法要での岡村先生のお話をきっかけに、西要寺の歴史について改めて考えてみました。

西要寺のホームページにも記載されていますが、寺伝では、西要寺の開基は1531年（享禄4年）頃とされています。一方、『尼崎市史』



には、「三反田の西要寺の祐斎は、生島村の庄屋・忠左衛門であり、老後に剃髪して寺号を建立した。そのため、有髪の毛坊主から円頂の僧侶になったようだ」と記されています。この出来事は岡村先生の記録調査によると、1664年（寛文4年）に該当するということになります。

ここで疑問が生じます。1664年以前、西要寺はまだお寺ではなかったのでしょうか？ 記録によれば、西要寺の開基は1531年（享禄4年）頃とされているので、1664年以前、すなわち初代および二代住職の時代の西要寺は「(お念仏の)道場」として機能していたと考えられます。

西要寺の記録によると、旧御本尊である阿弥陀如来絵像は、初代住職・浄祐の申し出により、本願寺第十代宗主・証如上人から下付されたものです。この絵像は木仏ではなく、道場のご本尊として奉られていたということでしょう。また、道場の運営は俗人である毛坊主（初代および二代住職）が担っていたということになります。その後、三代住職・祐斎の時代に至り、西要寺は正式に寺院となりました。このとき、祐斎は正式な僧侶となったのです。

なお、「道場」は浄土真宗における原初的な形態とされています。道場は、農民たちが読経を行い法話を聞くためにお金を出し合い、集落ごとに設けられた場所でした。また、集落の公民館的な役割も果たしていたと考えられます。江戸時代の中頃になると、キリスト教を禁制するための寺檀制度が敷かれ、全ての人々がどこかの寺院の檀家になることが義務づけられました。この制度に伴い、「宗判権」を得るために多くの道場が次第に寺院へと転換していったのです。

●仏像講座のご報告

昨年12月22日（日）午後2時より、仏像講座を開催しました。ご講師として、高槻市の行信教校校長・天岸浄圓先生をお迎えし、仏像についての基礎知識を丁寧に解説していただきました。行信教校は、浄土真宗・仏教を学べる学校です。講義では、如来像、菩薩像、明王像、天部像、祖師像の5種類の仏像について、それぞれの特徴や役割などについて詳しく丁寧に説明していただき、参加者からは「非常にわかりやすい講義だった」と感想をいただきました。

次回の仏像講座は6月22日（日）に開催予定です。初めてお寺に来られる方でも楽しんでいただける内容ですので、ぜひご参加ください。

●新年会のご報告

令和7年1月11日（土）、西要寺一道会の新年会を開催しました。12時からの懇親会では、弁当を囲みながら参加者同士が親睦を深め、和やかなひとときを過ごしました。

アトラクションでは、石橋文恵先生と高橋千恵先生をお迎えしました。石橋先生は神戸音楽家協会や神戸オペラカンパニーに所属され、京都西山高校の非常勤講師や第一楽器音楽教室の講師として活躍されています。また、西要寺の門徒さんの娘さんでもあります。一方、高橋先生はチェンバロやパイプオルガンをはじめとする鍵盤楽器の演奏家で、現在は音楽教室で後進の指導に尽力されています。

当日は、高橋先生のピアノ伴奏に合わせて、石橋先生がオペラの歌声を披露していただきました。美しい歌声と心に響く演奏に、参加者一同が魅了されました。新年の幕開けにふさわしい、感動的で充実したひとときとなりました。



●最後に・・・

報恩講法要では歴史にまつわる講話が大変好評でした。そのため、来年度も歴史講座を開催する予定です。また、昨年ご好評をいただいた仏像講座も、引き続き六月の開催を計画しております。さらに、お経の中にはドラマチックで心に響くお話も多く含まれています。そうした興味深い内容についても、法要の際にご講師の先生からお話いただくことを考えています。これからも、西要寺の法座や法要へのご参詣を心よりお待ちしております。

◎西要寺行事予定◎

【定例法座】

2月22日（土）午後2時より

テーマ：「御文章 ～信心をいただくということ～」のおはなし

講師：三浦 真証師

（龍谷大学講師 奈良県吉野 光明寺副住職）

場所：西要寺本堂

【定例法座】

テーマ：「御文章 ～無常のいのちを生きるということ～」のおはなし

3月22日（土）午後2時より

講師：西要寺住職

場所：西要寺本堂

ホームページ (saiyouji.com)



または さいようじ
西要寺 と検索ください。

浄土真宗本願寺派 さいようじ
西要寺

661-0024 尼崎市三反田町1-7-27

TEL 06-6429-8241